



山口きずな音楽祭
プロジェクト
YAMAGUCHI KIZUNA MUSIC FESTIVAL

2026 AUTUMN

10.22 THU . 23 FRI

各回 先着 39名

お食事開始 19:00

公演 20:00-21:00

10.24 SAT

先着 39名

お食事開始 17:30

公演 18:30-19:30

ピアノ
長濱 司



三夜

歌の肉

うた
ともしび

山口きずな音楽祭



中井 智彦

ミュージカル俳優・歌手・表現者

at
ISO'S
BAR 3 Show
days

中原中也そして、
亀渕友香さんの命日でもある10月22日。
しみりとした追悼ではなく、
縁のある ISO'S BAR を
「サーカス小屋」に見立て、
この日／この時間／この場所に、
中也を愛する方、亀渕さんを愛する方が集い、
新しい表現が生まれる。
「きずなの聖地」で歌を通じ、
お二人を偲び、心に灯火がともるような時間を、
一緒に。

【主催】

ISO'S BAR

upcoming 株式会社

山口きずな音楽祭プロジェクト

【後援】

公益財団法人山口市文化振興財団

中原中也記念館



山口きずな音楽祭

三夜 歌の 人

うた
た
もしび

3days ISO'S BAR

2026.10.22^{THU}.23^{FRI} お食事あります

お食事開始 19:00 公演 20:00～21:00

2026.10.24^{SAT} お食事あります

お食事開始 17:30 公演 18:30～19:30

出演

中井 智彦
長濱 司 ピアノ

プログラム

「サーカス」「幻影」(詩人・中原中也の世界より)
「愛せぬならば」(美女と野獣より)
「幸せはすべての人に」
「きずな」他

チケット

全席指定 (お席は当日ご案内します)
7,000円
別途、お食事代 3,000円 (1ドリンク付き)

チケットの
お申し込み

チケットぴあ
(Pコード : 337241)



会場

ISO'S BAR
山口市湯田温泉4丁目2-27 TEL 083-921-4588



中井 智彦

Nakai Tomohiko

ミュージカル俳優
歌手
表現者

東京藝術大学卒業。2007 年『レ・ミゼラブル』で初舞台を踏む。2010年から5年間、劇団四季に所属し『美女と野獣』(野獣役)『オペラ座の怪人』(ラウル役)ではそれぞれ500ステージを務める。2016 年には作曲・演出も手がける一人舞台『詩人・中原中也の世界』を発表。2019年より『歌の灯火 (おさとかえり)』『中井智彦]Presented by 山口きずな音楽祭』に出演。2025 年には、脚本・演出も手がけた音楽劇『生きるということ〜中村哲医師が示した真心〜』を発表するなど、自ら作品を創り出す表現者としても活動を展開している。

主な出演は、舞台『ビリー・エリオット〜リトル・ダンサー〜』『ジェーン・エア』『ムーラン・ルージュ! ザ・ミュージカル』『ミセン』『わたしの書、頁を図る』。

神奈川県出身。

オフィシャルウェブサイト&ファンクラブ

<https://www.nakaitomohiko.jp>



長濱 司

Nagahama Tsukasa

作編曲家
ピアニスト

北海道出身。

国立音楽大学音楽学部演奏学科ジャズ専修卒業。ミュージカル、ポップスを主軸とし、幅広いジャンルで作曲・編曲、演奏、レコーディングに携わる。特に近年は、指揮およびキーボードコンダクターとして数多くの舞台・ミュージカル作品に参加。

主な参加作品は、舞台『千と千尋の神隠し』『キングダム』、ミュージカル『十二国記』、『この世界の片隅に』、『next to normal』、『のだめカンタービレ』、『GREASE』など。また、オリジナル作品の制作にも力を入れており音楽劇『生きるということ〜中村哲医師が示した真心〜』の作曲を担当。



1993年日本を代表するゴスペルグループThe Voices of Japan (VOJA) 発足。2008年「第1回 野口英世アフリカ賞」の授賞式および記念晩餐会にて、天皇后陛下や歴代総理大臣、アフリカ各国の大統領や国王といった国賓の前で演奏。2009年より8年連続で、山口きずな音楽祭に出演し、楽曲「きずな」を山口クリスマス市に広める。2017年10月22日逝去。

亀渕 友香 Kamebuchi Yuka

日本のゴスペルシンガーの第一人者



中原 中也 Nakahara Chūya

詩人

1907年4月29日、山口市湯田温泉生まれ。小学校高学年より短歌を制作。文学に熱中するあまり山口中学校を落第し、京都の立命館中学へ転校。ダダイズムの詩を書き始め、富永太郎からフランス象徴詩を学ぶ。1925年に上京し、小林秀雄、河上徹太郎、大岡昇平らと交流しながら、詩や翻訳・評論を発表。生前の著作に第一詩集『山羊の歌』(1934年)の他、ランボーの翻訳詩集3冊がある。1937年10月22日、鎌倉で死去。享年30歳。翌年、友人たちの手で第二詩集『在りし日の歌』が刊行された。